

トラック輸送情報（平成17年9月分）

平成17年12月2日

国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課

担当：高橋、荒木、荒井 内線28315

直通：03-5253-8342

ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

1. 特別積合せ貨物

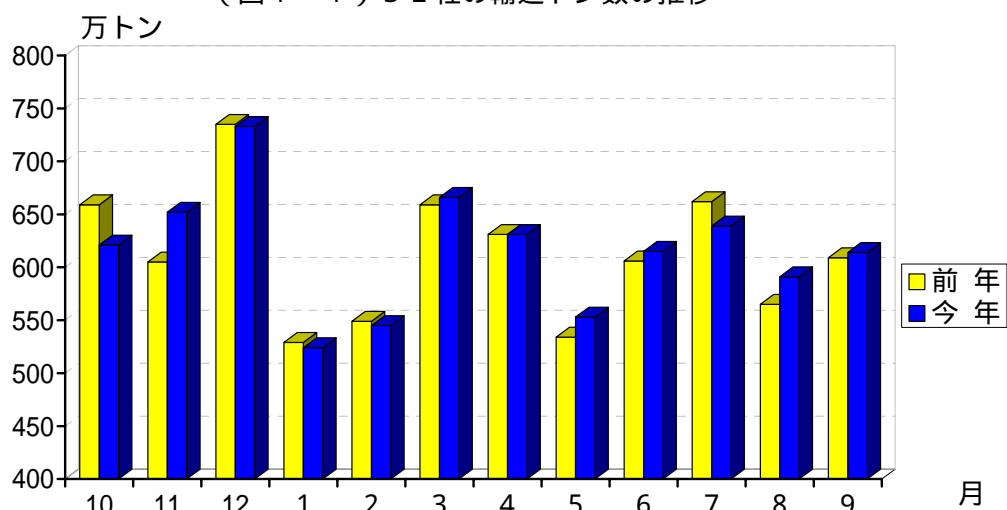
(1) 本月の概況

調査対象32社の本月の輸送量は、6,138,546トンで、前月と比べ、総輸送量が約23万トン増加したため、前月比104.0%（季節調整済み100.0%）前年同月と比べ、約5万トン増加したため、前年同月比100.8%の実績であった。

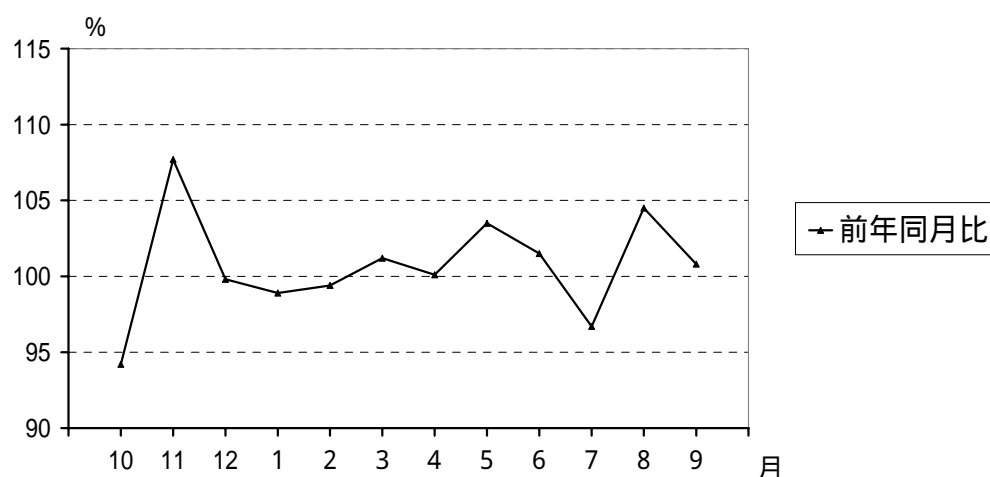
なお、平均稼働日数は23.7日で、前月と比べ0.4日の減少、前年同月比では増減はなかった。稼働1日当たりの輸送量は、259,010トンで、前月と比べ、約1万トン増加したため、前月比105.7%、前年同月と比べ、約2千トン増加したため、前年同月比100.8%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）32社の輸送トン数の推移



（図1-2）32社の輸送トン数の前年同月比

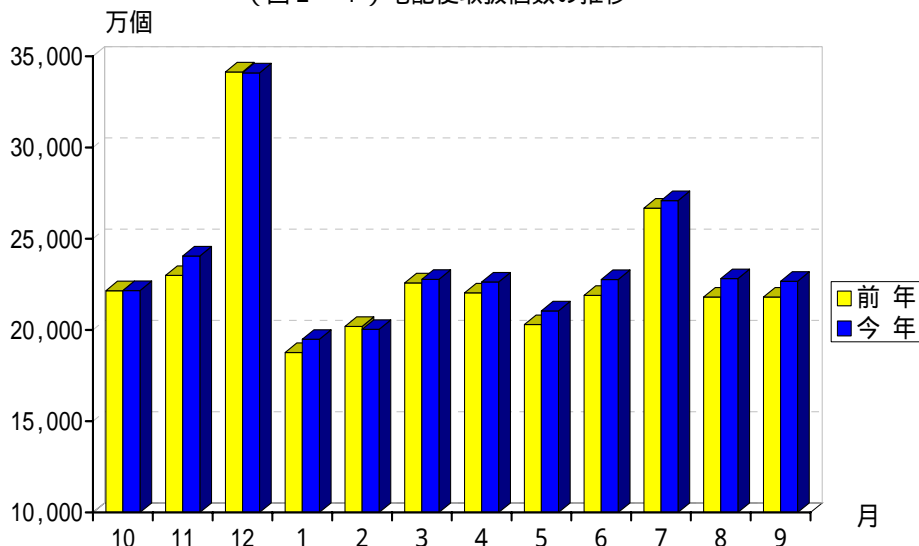


(2) 宅配便の概況

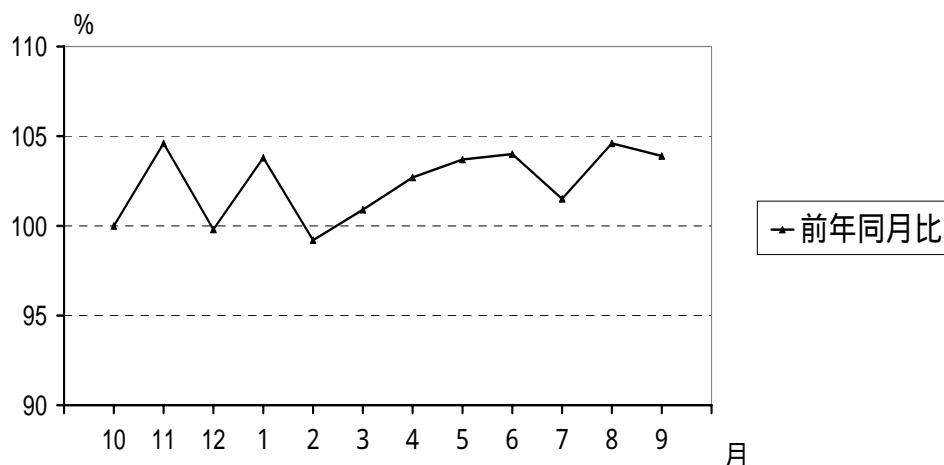
調査対象 19 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、226,666 千個で、前月と比べ、約 147 万個減少したため、前月比 99.4% (季節調整済み 96.4%)、前年同月と比べると、約 861 万個増加したため、前年同月比 103.9%の実績であった。(図 2 - 1、図 2 - 2 参照)

(注)平成 17 年 2 月より調査対象のうちの 1 社が宅配便の扱いを中止したため、宅配便調査対象が 19 社となっている。なお、当該事業者の宅配便におけるシェアが小さく(平成 17 年 1 月で全宅配便個数の約 0.02%)、影響が小さいことから、前年同月比は 20 社のデータと比較している。

(図 2 - 1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2 - 2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、8 月のお盆休みによる輸送量減少からの反動や、9 月の決算期による輸送需要の増加もあって、全般的に貨物量が増加した。理由としては、工場・生産地からの貨物増、季節的需要増であった。また、日用品では、倉庫から出る貨物増も見られた。地域的には、機械が大阪、中国を中心に、繊維工業品が中国を中心に、日用品が関東地方、近畿、中国を中心に、それぞれ増加した。一方、その他(百貨店配送品)が神奈川、関東において減少した。

前年同月と比べると、金属製品において、工場・生産地からの貨物増が見られた。一方、繊維工業品においては、工場・生産地からの貨物減が見られた。地域的には、農水産品が中国で増加した。また、金属製品が北陸信越で増加した。一方、化学工業品は神奈川、関東において、機械は愛知、大阪、近畿において、それぞれ減少した。この結果、全体としては対前年同月比 100.8%となった。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 32社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因	
	著増	増	変らず	減	著減				
前 月 に 比 べ て	農水産品		4	11	2	1	野菜	東京、関東	
								青果物	中国
	金属製品	1	6	18	2			大阪、兵庫	4、8
	機 械		7	18	2	1	電気機械、機械部品	大阪、中国	4、8
									4
	化学工業品		6	20	3		その他の化学工業品	愛知、大阪	4、8
							その他の化学工業品	関東	
	繊維工業品		7	20	2		織物	中国	4、8
									4
食料工業品	1	7	19	1		飲料、加工食品	関東、大阪	4、8	
日 用 品		12	17			書籍・印刷物、その他の日用品	関東地方、近畿、中国	4、7、8	
そ の 他		5	17	5	1			8	
						百貨店配送品	神奈川、関東	2、8	
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		3	13	2		野菜、青果物	中国	4
								神奈川	4
	金属製品	1	2	22	1	1	その他の金属製品	北陸信越	4
								神奈川	
	機 械		2	21	4	1	その他の機械		4
								愛知、大阪、近畿	4
	化学工業品		6	16	6	1	その他の化学工業品	愛知、中国	1、4、7
							合成樹脂、その他の化学工業品	神奈川、関東	4、7、9
	繊維工業品			22	7				
							糸、織物	神奈川、関東、中国	4、9
食料工業品		7	15	4	2	加工食品	関東	4、5、7	
						飲料、加工食品	神奈川、関東	4、9	
日 用 品		3	19	6		その他の日用品	北海道、関東地方、九州	4、9	
						書籍・印刷物、文具、その他の日用品	関東	4、9	
そ の 他		4	18	5	1				
						百貨店配送品	神奈川、大阪	2、9	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2 . 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 843 社 / 調査対象事業者数 1,068 社）の輸送量は、前年同月比 101.8%、前月比 104.5%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	101.8%	101.7%	100.7%	107.3%	104.0%	101.2%	99.3%	102.2%	99.2%	104.7%	85.4%
前 月 比	104.5%	106.8%	103.4%	106.1%	103.6%	104.1%	106.8%	107.5%	100.7%	102.4%	91.8%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、各種工事が引き続き好調に推移し「砂利・砂・石材」等の工事関連資材の輸送が増加した。また、農産物の収穫期及び水産物の漁獲期を迎えたことにより輸送が増加したことから、対前月比 106.8%となった。対前年同月比は 101.7%であった。今後の見通しは、次月は農産物の収穫期・工事の追い込み時期から関連輸送が期待でき、上昇傾向で推移するものと思われるが、以降は減少傾向にあると思われる。</p>
東北	<p>本月の輸送は、農繁期に差し掛かったことから、「穀物（米）」の輸送量の増加が目立った。また、建設工事が増加し「砂利・砂・石材」「セメント」「金属製品」の輸送量も増加した。このため対前月比は 103.4%となった。対前年同月比は 100.7%であった。今後の輸送見通しは、次月は引き続き農作物の収穫時期に伴う輸送の増加があるため、次月及び以降とも増加傾向にあるものと思われる。</p>
関東	<p>本月の輸送は、収穫期に入ったことから「野菜・果物」の輸送量が増加し、建設関係の需要により「金属製品」と「その他の窯業品」が増加した。このため、輸送量は対前月比 106.1%と増加した。対前年同月比においても 107.3%と増加した。しかし、今後の輸送見通しは、次月及び以降とも減少傾向と予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、収穫期による「穀物」及び新潟県中越地震の復旧工事等に伴う資材（「鉄鋼」「木材」「セメント」等）の増加が目立った。このため、対前月比 103.6%、対前年同月比も 104.0%とともに増加した。今後の輸送の見通しは、次月及び以降とも増加傾向にあると思われる。</p>
中部	<p>本月の輸送は、「食料工業品」等の輸送減が見られたものの、「機械」「セメント」「日用品」「その他の製造工業品」の増加をはじめ、全体的に輸送量が増加したことから、対前月比 104.1%となった。また、対前年同月比についても 101.2%と増加した。今後の輸送見通しは、次月はほぼ横ばい、以降は若干増加傾向と見込まれる。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、9月の決算期に伴い、輸送量は前月に比べ全体的に増加した。品目では、贈答品輸送の減少により「日用品」「取り合せ品」の減少が見られたが、「金属製品」「機械」に増加が見られた。このため、対前月比 106.8%と増加した。対前年同月比は 99.3%であった。今後の見通しは、次月及び以降ともほぼ横ばい傾向にあると思われる。</p>
中国	<p>本月の輸送は、季節的に収穫時期であり、「穀物」「野菜・果物」など食料品関係の品目の輸送量が増えている。また、「砂利・砂・石材」「鉄鋼」「化学薬品」の輸送量が増加した。このため、対前月比 107.5%と増加した。対前年同月比についても 102.2%と増加した。今後の輸送の見通しについては、次月は減少傾向以降は横ばい傾向にある。</p>
四国	<p>本月の輸送は、季節的な増加に伴い「穀物」が増加したことをはじめ、「化学肥料」「日用品」が増加した。一方、建設工事の減少により「鉄鋼」「金属製品」「その他の窯業品」「廃棄物」が減少し、「取り合せ品」も減少した。このため、対前月比 100.7%、対前年同月比 99.2%であった。今後の輸送見通しは、次月は若干の減少、以降は若干の増加傾向にあると思われる。</p>
九州	<p>本月の輸送は、対前月比で 102.4%、対前年同月比で 104.7%と増加した。その要因として、米穀の収穫時期に入り「穀物」の輸送量が増加したこと、「鉄鋼」等の工業材料、「セメント」や「木材」等の建設材料の需要が高いことがあげられる。その反面、「動植物性飼・肥料」の減少、更に、飲料水などの「食料工業品」の季節的減少がみられた。今後の見通しであるが、農作物の収穫に伴う増加があるものの、全体を通してみると、次月及び以降ともほぼ横ばいの状況にあると思われる。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、「野菜・果物（青切りみかん）」の本土出荷の増加が見られたものの、「取り合せ品（引越貨物）」の大幅輸送減、及び「食料工業品（飲料・ビール）」の輸送が減少した。対前月比で 91.8%、対前年同月比では 85.4%となった。今後の見通しについては、次月及び以降とも増加傾向にあると思われる。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局	北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
		海	道	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	国
1. 穀物	増	3	3	0	3	1	0	2	3	3	0	18	
	減	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	3	
2. 野菜・果物	増	6	3	2	1	0	0	2	1	3	1	19	
	減	0	3	1	0	0	1	0	2	5	0	12	
3. その他の農産品	増	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2	
	減	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	
4. 畜産品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	減	2	0	0	0	0	0	1	0	2	0	5	
5. 水産品	増	3	2	1	0	0	0	1	0	1	0	8	
	減	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	3	
6. 木材	増	2	2	0	4	0	0	2	0	1	0	11	
	減	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	4	
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
8. 石炭	増	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
	減	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	
9. 金属鉱物	増	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
10. 砂利・砂・石材	増	15	3	0	0	0	0	2	1	2	0	23	
	減	6	2	0	2	0	1	0	0	4	0	15	
11. 工業用非金属鉱物	増	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	3	
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	3	
12. 鉄鋼	増	1	3	0	3	0	1	4	0	3	0	15	
	減	0	0	0	0	0	1	2	2	2	0	7	
13. 非鉄金属	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	減	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
14. 金属製品	増	1	2	2	2	1	2	1	0	1	0	12	
	減	0	0	1	0	0	1	2	1	2	0	7	
15. 機械	増	1	2	1	2	4	2	2	2	2	0	18	
	減	0	0	1	0	0	1	1	0	2	0	5	
16. セメント	増	2	2	0	3	2	0	2	1	8	0	20	
	減	0	1	0	0	0	0	1	0	5	0	7	
17. その他の窯業品	増	1	1	1	1	0	0	1	0	0	0	5	
	減	0	1	0	1	0	0	1	1	0	0	4	

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
18. 揮発油	増	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	減	0	0	0	3	0	0	1	0	0	0	4
19. その他の石油製品	増	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	4
	減	1	1	0	2	0	0	2	0	2	0	8
20. コークス・ その他の石炭製品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
21. 化学薬品	増	0	2	0	1	1	0	2	0	0	0	6
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22. 化学肥料	増	1	0	1	0	0	1	0	2	1	0	6
	減	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	3
23. その他の化学工業品	増	0	1	0	0	1	2	0	0	1	0	5
	減	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	3
24. 紙・パルプ	増	0	1	0	0	1	1	1	1	2	0	7
	減	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	4
25. 繊維工業品	増	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
26. 食料工業品	増	1	3	2	1	0	2	2	1	2	0	14
	減	1	2	1	2	3	1	1	2	12	2	27
27. 日用品	増	2	0	2	0	2	1	1	3	1	0	12
	減	1	0	1	0	0	2	0	0	2	0	6
28. その他の製造工業品	増	0	1	0	0	5	2	1	0	3	0	12
	減	0	0	0	1	2	0	0	1	1	0	5
29. 金属くず	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30. その他のくずもの	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31. 動植物性飼・肥料	増	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	4
	減	0	1	1	0	0	0	0	0	4	0	6
32. 廃棄物	増	1	3	1	2	0	0	0	0	0	0	7
	減	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
33. 輸送用容器	増	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	減	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
34. 取り合せ品	増	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	1	0	1	1	0	2	1	5	11
35. その他	増	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	3
	減	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	4